

学校番号 147 江戸川区立本一色小学校

「全国学力・学習状況調査」平均正答率東京都との差

学年	第6学年		
年度	国語	算数	合計
令和12年度の目標			
令和11年度の目標			
令和10年度の目標			
令和9年度の目標			
令和8年度の目標	0	0	0
令和7年度の結果	+3	+5	+8
令和6年度の結果	-4	-2	-6
令和5年度の結果	-3	-5	-8

「江戸川区学力調査」平均正答率全国との差

学年	第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
年度	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
令和12年度の目標								
令和11年度の目標								
令和10年度の目標								
令和9年度の目標								
令和8年度の目標	0	0	0	-4	+4	+5	0	0
令和7年度の結果	-3.5	-7.2	+4.7	+5.4	-3.0	-2.7	+1.8	+3.1
令和6年度の結果	+3.6	-0.2	-1.4	-4.4	+1.7	+4.0	+0.9	-1.1
令和5年度の結果								

年度	令和7年度 成果と課題			令和8年度				
内容	成果と課題			目標	目標達成に向けた取組			
学校全体	【成果】 ○国語科の「話すこと・聞くこと」ではどの学年も正答率が高かった。 【課題】 ○江戸川区学力調査の結果から、国語科では自分の考えや気持ちを記述する、「書くこと」の正答率が低かった。算数科は「測定・図形・数と計算」の正答率が低かった。 ○算数科はどの学年も「基礎的な問題」の定着率が低くかった。			（国語） ○校内研究で「読む」ことをテーマに研究してるので、読む力を高めることで表現する力もつけていけるように、研究授業を実践していく。 （算数） ○「測定」では時刻や重さ、単位換算などを理解する。「数と計算」では計算の仕方を習得する。「図形」では用語を理解し、活用できるようにする。	（国語） ○校内研究で「読むこと」を通して表現する力を高められるように、校内研究の体制を整えて全校で同じ方向で授業実践を行う。 ○「よむよむワークシート」を活用して、読んだ内容に対して自分の考えをもてるようにしていく。 （算数） ○算数科では基礎基本の定着を図れるように、既習の内容に立ち戻りながら積み重ねていけるように指導していく。 ○朝学習の活用では、基礎的な問題に取り組んだり、習得ができていない学習をもう一度行うなどしていく。			
第1学年	【成果】 ○国語科では、言葉や語句のまとまりに注目して読もうとする力がついた。段落と段落のつながりを考える力がついた。算数科では、数の分解・合成をもとに計算する力がついた。友達との話し合いを通して、分からない問題を解決しようとする。 【課題】 ○国語・算数ともに学力の差ができてきている。			（国語） ○言葉を正しく理解できるようにする。 （算数） ○課題を捉えて、正しく立式できるようにする。 （共通） ○友達の考えを聞いたり、自分の考えを話したりできるようにする。	（国語） ○単元の学習計画に、語句の意味を理解するための時間を取り入れる。 ○小グループでの活動を進んで取り入れ、話す機会を増やす。 （算数） ○自分の考えを図や記号等を用いて表せるよう、自力解決の時間を取り入れる。			
第2学年	【成果】 ○読んだ内容に対して、自分の考えや思いを表現する意識が高まった。また友達と話し合い、考えを聞くことができるようになってきた。算数科では文章や図を使いながら自分の考えを表現できるようになってきた。 【課題】 ○国語科では、主語と述語を意識して正しい文章を書くことが苦手。文章のねじれなどに気付くことも課題がある。算数科では九九が定着できていない。			（国語） ○主語と述語を正しく理解し、文を書くときに使えるようにする。 ○自分の文章を読み直し間違いに気付けるようにする。 （算数） ○九九を授業の中で唱えることを繰り返し定着させる。 ○文章問題で問われていることを正しく捉えられるようにする。	（国語） ○書く単元だけでなく、書く活動がある学習の際には自分の書いた文章を読み返して見直しをする時間を設定する。 ○推敲をする際に、読み直す視点（誤字・脱字、主語と述語、てにをはの使い方など）を理解しながら見直せるようにする。 （算数） ○授業の始まりに九九を唱える時間を取り入れる。 ○文章問題に線を引くなど、問われていることが捉えられるような支援をする。			
第3学年	【成果】 ○国語科では、聞くこと、文学的な文章を読むことにに対しては、正答率が高く、学習が身に付いている。算数科では、長さ、時刻と時間については、正答率が高く、実物を見て考える問題に対しては、正しく理解している。 【課題】 ○国語科では、漢字の読み書き、文の組み立てについて正答率が低い。算数科の四則計算については、どの問題でも正答率が低い。どちらの教科も、基礎的な力が身に付いていない。			（国語） ○漢字を正しく読んで、正しく書けるようにする。 ○文章の組み立てを理解して、文章を書くことができるようにする。 （算数） ○計算の順序を理解して、正しく計算をすることができるようにする。	（国語） ○朝学習や授業の始まりに、既習した漢字を確かめる問題に取り組ませ、定着を図る。 ○文章を書く前には、主語、述語、修飾語について、指導をする。 （算数） ○計算単元の際には、授業の始まりに既習内容を確認する問題に取り組ませ、定着を図る。			
第4学年	【成果】 ○漢字の読み書きや送り仮名など、基礎的な力が定着してきた。また話を聞いて、その内容に正対した答えを見付けることができています。算数科では角や小数の単元で正答率が高く、理解している。 【課題】 ○国語科では物語文に出てくる登場人物の特徴を捉えたり、会話内容を推察したりすることが苦手。正しく文脈を捉える力が弱い。算数科では記号を用いて式を組み立てることや、適切な重さの単位の定着ができていない。			（国語） ○文章を読み直す習慣を身に付ける。 ○文章全体の内容をおおまかに把握できるようにする。 （算数） ○文章を正確に読み取って、記号を使って正しく立式できるようにする。 ○重さによって正しい単位を使えるようにする。	（国語） ○日頃から文章を読み直す時間を確保する。 ○短い言葉で文章の内容を要約する活動を学習計画に取り入れて指導する。 （算数） ○既習内容を基に記号を使った式の組み立て方を振り返る時間を取り入れる。 ○立体の単元も含め目で見えない部分を想像したり想起させる時間を取る。			
第5学年	【成果】 ○面積・体積の求め方のような公式があるものや表やグラフの読み取りなどは正答率が高く、しっかりと学習が身に付いている。 【課題】 ○国語科では、説明文の文章の問題の正答率が低かった。細かいところまで文章を読むことが苦手であることがわかる。算数では、活用問題に正答率が低かった。応用力が低いことがわかる。			（国語） ○説明文で正しく文章を精査・解釈できるようにする。 ○接続語や敬語などの文法が正確に理解できるようにする。 （算数） ○展開図にしたときの対応する部分を理解できるようにする。 ○計算の順序を理解し、正確に計算できるようにする。	（国語） ○説明文を読みとくときにつなぎ言葉に注目をして、段落相互の関係を確かめるようにする。 ○普段文章を読むときに、「言葉」に着目したり、言葉の違いで意味やニュアンスが変わることを理解できるようにする。 （算数） ○図形の学習を行う際には、想像だけでなく実際の立体を触りながら学習を進められるようにする。 ○計算が出てきたときには、順序を確認しながら、過去の学習に立ち返りながら進めるようにする。			
第6学年	【成果】 ○算数科では、公式を使う問題の正答率が高く、基本的な知識が身に付いていることがわかる。 【課題】 ○国語科では、言葉の特徴や使い方の正答率が低かった。また、書いて表現する問題の正答率が低く、無回答が高かった。書くことに対して苦手意識があることがわかる。算数科では、図形の問題と活用問題の正答率が低かった。また、分数の計算の正答率が全国や区の平均と比べて低かった。			（国語） ○言葉の特徴や使い方を正しく理解できるようにする。 ○読み取ったことをもとに、自分の考えを書いて表現できるようにする。 （算数） ○分数の加減・乗除の仕方を正しく身に付ける。 ○見取り図から、辺や面、頂点などの位置関係を正しく捉えられるようにする。	（国語） ○説明的な文章や文学的な文章の学習を読む中で、正しい言葉の使い方を確かめる。 ○話して交流した後に書く活動を取り入れたり、国語以外でも書く活動を取り入れたりすることで、書くことに慣れるようにする。 （算数） ○計算問題では途中式を書くよう指導し、答え合わせの際には途中式も丁寧に確かめるようにする。 ○実際の立体と見取り図、展開図を見比べられるように提示することで、図形を正しく捉える感覚を養っていく。			